

每度之例也。

准后 宣下仰詞不審條

從一位藤原朝臣准三宮賜年官年爵食邑內舍人兵仗

〔公卿補任後土御門〕明應六年巳丁

前太政大臣從一位藤原政家五十四前關白、四月十六日准三宮、賜年官年爵、食邑封戶、如忠仁公故事、可作勅書之由宣下、

〔勅書寫〕安政三年八月八日、鷹司關白政通公當職固ク辭退之處、被聞召乍併如關白中内覽兵仗等、

如舊宣下、格別依勤於勞、八月八日、同日准后宣下也、御頂戴、

勅俯披皇圖、緬稽曩策、昭代之典、崇重元勳、爲貴聖王之政、優待碩德、爲先爰前關白太政大臣藤原朝

臣、斧藻仁義、珪璋令範、專任博陸之勞、已三十有四年、光輔兩朝、用贊皇猷、羽儀百辟、式熙帝載、啓沃之

謨、酌泉源而弗竭、忠貞之節、貫雪霜而靡渝、信人倫之氷鏡、道義之標準也、非遵褒德勸功之典、曷示尊

賢尚齒之儀、宜加年官年爵、一准三宮、食邑三千戶、以內舍人二人、左右兵衛各六人、爲隨身兵仗、並賜

帶仗資人三十人、如忠仁公故事、普告遠近、令知朕意、主者施行、

安政三年八月八日

〔准后准三后考〕清華准三宮の始

未詳

逍遙院殿の御説に、清華其例希なり、たしかに所存を得ず、北畠親房卿、南朝に於て宣下なり、當

朝には用ふべからずと注されたり、さらば其初さだかならずと云べし、

〔太平記三十一〕吉野殿與相公羽林御和陸事附住吉松折事

北畠入道源大納言房、親ハ、准后ノ宣旨ヲ蒙テ、華奢タル大童子ヲ召具シ、輦ニ駕シテ宮中ヲ出入

ス、其粧天下耳目ヲ驚カセリ、此人ハ、故奥州ノ國司顯家ノ父、今皇后嚴君ニテオハスレバ、武功ト

清華